

# 無量寿

【発行】雲夢山寿命寺

2020  
秋

CONTENTS

[P1-2] 報恩講師法話、[P2] 編集後記、LINEアカウント案内

大津市雄琴 3-19-36 TEL/FAX 077-572-5125 <https://jumyouji.net/>

10/24・25に予定していた報恩講は、新型コロナウイルスの感染が未だ収束しない状況に鑑みて、25日午後の一座のみに縮小し、かつ参拝を総代に限る形でお勤めします。詳細は同封のご案内を確認ください。この寺報には予定していたご講師の法話を掲載します。是非お読みください。

ぴえんこえてぽおん...

永代経に続き

## 報恩講までも

## 規模縮小...



### 「願いを受けとめ味わう」

竹田嘉円 師（広島・明円寺住職）

竹田先生のご法話は一昨年の本福寺さんの報恩講で初めて聴きました。広島弁独特の、どこか懐かしい感じがする語り口で仏さまの心を丁寧にお示しく下さり、これは是非とも寿命寺のご門徒さんにも聴いてもらいたいと思いました。その念願は今回は叶いませんが、必ず改めてお招きしますので、どうかお楽しみに。左は本願寺新報に以前掲載された先生の法話です。ご高覧ください。



#### 自分の名前がイヤ

私の名前は、漢字で「嘉円」と書いて「よしまる」と読みます。でも私は中学生くらいまで、この名前が嫌いでした。それは幼稚園の時も、小学校に上がってから、私の名前をまともに「よしまる」と読んでくれた人が誰もいなかったからです。

新学期が始まり、担任の先生が出席をとるため生徒の名前を名簿順に呼ぶときなどは、憂うつでたまりませんでした。どの先生も私の名前が読めないのです。すると先生が「この名前は どう読むのか」と言われます。私が「よしまる」と読みます」と言うと、先生が「変わった名前だなあ。おまえの家はお寺か、それで…」と言われるのです。すると、なぜだかクラスのみんながドツと笑うのです。

しかし、高校生や大学生になると、友だちが

「おまえの名前はオリジナリティーがあつていい」って言ってくれるようになりました。私は単純なのか、人から「いい」って言われるとうれしくって、自分の名前も「まんざらでもないなあ」と思うようになりました。それでも今も多少のコンプレックスはあります。今思えば、父に「何でこんな名前つけたん？」って聞いておけばよかったと思います。

しかし、その父も27年前にお浄土へ往生させていただき、今となつては聞きようがありませんが、おそらく父は、親鸞聖人がお書きになつた『教行信証』にある「円融至徳（えんにゆうしとく）の嘉号（かこう）」（あらゆる功德をそなえた名号）というお言葉から私の名前をつけたのではないかと思っています。

もしそうなら、好きになれなかった私の名前にも、私のことを思う父の願いが込められてい

たのではないか……。仏教を学ばせていただく中で、今ではこのように思うようにもなりました。

あらためて、私という存在と名前とは、別ものではなく一つなのだということを思います。だから、自分の名前を軽く扱われたり、馬鹿にされると傷ついたり、腹が立ったりするのです。たかが名前、されど名前です。

### 名号として届けられ



浄土真宗のご本尊である阿弥陀さまは、「私の名号を広くすべての世界に響かせよう。もし聞こえないところがあるなら誓って仏にはなるまい」と言われ、みずから名前を名告(なのり)り、その存在を私たち一人ひとりに知らせ、私たち一人ひとりのところに届いてくださっているのです。だから私たちは、阿弥陀さまの名前を称えながら、阿弥陀さまに出会うことができます。

では、「阿弥陀」というお名前に込められた願いとは何なのでしょう。

「阿弥陀」とは、インドの言葉「アミターバー、アミターユス」を音訳したもので、「無量光(むりょうこう)、無量寿(むりょうじゆ)」と漢訳されました。

光には、ものを明るく照らしはつきりさせるというはたらきと、ものをあたたかく包み育むというはたらきがあります。私たちは、この阿弥陀さまの無限なる光(無量光)のはたらきに会うことによって、自分では見えなかった煩惱具足の凡夫という愚かな本当の自分の姿を知らせていただくと同時に、そんな私を放っておけないという阿弥陀さまのあたたかいおこころに包まれていることを知らせていただくのです。

また、阿弥陀さまは無量なるいのち(無量寿)をもつ仏さまですから、この阿弥陀さまの光のはたらきはいつまでもとどまることがないことも併せて知らせていただきます。

私たちは、「阿弥陀」という名前に込められた願い(はたらき)をよく受けとめてお念仏を申させていただくこと。また、お念仏を申しながら「阿弥陀」という名前に込められた願い(はたらき)をよく味わわせていただくことが大切です。

このように日々お念仏を申して生きる中で、わが身の愚かさを厭い、阿弥陀さまのあたたかいお育ての中で、お浄土をめざして生きていく新たな自分になっていくのです。

一緒にお仏壇の前でお念仏申しながら味わわせていただけたらと思います。

(本願寺新報 2015年3月10日号掲載)

### ◆編集後記◆

苦勞自慢ではありませんが、報恩講を控えたこの時期は毎年、仕事から帰って夕食を済ませると本堂に籠もり、少しずつ荘厳を整える毎日でした。大変ではありますが、沢山のお参りと賑々しい法要を思えば心躍り、また1人黙々と作業していると仏様が身近に感じられ、何とも心豊かな時間でした。

それが今年は報恩講が規模縮小となり、すっかり張り合いをなくしてしまいました。でも私とその作業を衷心から喜んでいたら、報恩講がどうあれやる気が萎むことなどないはず。結局のところ、行事や役職の責務に促されて、ようやく仏様に向き合う時間を与えてもらっていただけのことかもしれません。せつかく仏様のそばに住ませて頂きながら、行事でもなければ仏様の元に足を運ぶこともままならない自分の身の程を、新型コロナウイルスに見透かされた心持ちがします。

でもだからこそ、報恩講や永代経の諸行事を引き継いでくださった先人に頭が下がります。心を入れ替えて今年もできるだけのことをさせて頂きます。そして来年は元に戻れることを切に願います。(住職)

### LINE はじめました!

寿命寺の公式アカウントを開設しました。門徒の皆さまへの諸連絡に用いていきますので、是非ともご登録をお願いします。スマートフォンで下記のQRコードを読み込んでください。

